

茨木市立 茨木小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年 10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった |
| ②情報の取り扱い | 良好な結果であった |
| ③A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④B書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤C読むこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

- | | |
|--------|-------------|
| (無解答率) | 概ね良好な結果であった |
|--------|-------------|

(その他)

- ・全国より正答率が高かった問題…話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題
- ・全国より正答率が低かった問題…文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題
- ・全国より無解答率が高かった問題…学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題

分析

<成果>

- ・書くこと以外は全国平均を上回っている。
- ・短答式（漢字）に関しては全国平均を大きく上回っている。
→言葉の意味や言葉を調べる学習の成果が出てきている。
- ・無回答率が低く、課題に取り組む態度（チャレンジ力）が育っている

<課題>

- ・「書くこと」、「記述式」の正答率が低く、無解答率も算数より多い。
- ・「書くこと」に該当する1二や、無解答率が全国や学校ともに低い3二は、参考にする資料が多く、問題文の理解が難しかった。
- ・無解答率の高い「記述式」の問題の1二と2四と3二の3問について、どれも「書く」だけでなく「条件設定」があるため、読み取ったことを順序立ててつなげていくことが難しかった。
→文章を自分でまとめたり要約したり多角的な視点を必要とする経験（取組み）を通して、課題に取り組む活動が必要である。
- 低位層の児童が、R5年度はやや増えている傾向から、低位層の児童が「記述式」や「書く」ことに粘り強く取り組めるような手立てが必要である。
- ・唯一全国平均を下回った1二は、他の記述問題と違い、条件が複雑（見るべき資料が多数ある、グラフ）だったり、自分の生活にかかわりがなかったりするものである。自分ごとに問題をとらえることができると記述問題でも書ける児童は多くなっている。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 大変良好な結果であった |
| ②B図形 | 大変良好な結果であった |
| ③C変化と関係 | 良好な結果であった |
| ④Dデータの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 大変良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・全国より正答率が高かった問題…被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる問題
- ・全国より正答率が低かった問題…示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している問題
- ・全国より無解答率が高かった問題…図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している問題

分析

<成果>

- ・どの領域でも全国平均を上回り、記述式の問題においても正答率が高い。
特に「図形」領域は、全国よりも高く、問題文をしっかりと理解して回答することができている。
- どの問題も概ね正答率が高いことは、つまりきから考える授業づくりにていねいに取り組んだ成果と考えられる。
- 短答式の正答率が高いのは、「小問」を実施してきた成果であり、記述式の正答率が高いのは、「ハンドブック」による指導の流れや見通しを持つことが定着できている成果だと考えられる。

<課題>

- ・概ね全国より正答率が高いが、「変化と関係」「割合」の問題の正答率が他の領域と比較すると低い。
- ・2(4)の問題は無解答率が他の記述式より低い、正答率も低い。その要因として、選択式と記述式の複合問題なので「選択できていて、記述がかけていなくても無解答には計上されていない」可能性がある。
- ・4(3)の無解答率が一番高いが問題自体は例を提示しており、わかりやすいため正答率はまだ高かった。無解答率が一番高い理由としては、「2つのグラフを比べること」と「文章で説明すること」の2つの作業が必要であり、どう答えたら良いか分からなくなったと考える。
- 算数の学習内容が日常生活と結び付いた学習体験が必要である。
- 低学年からテープ図を意識的に活用し、慣れていくことで問題の内容の把握ができるようにしていきたい。
- 課題解決を通して「なぜその答えを選んだのか」ということを文章で表現する活動が必要である。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・国語の正答率が昨年よりやや下がっている。
- ・算数は家庭学習の取組みもあり、読み取りが多い国語より正答率が高い傾向がある。
- ・無解答は依然として記述式問題に多い。
- ・全体的に非常によくできているが、国語も算数もグラフが問題に関わってくると正答率が落ちていた。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・国語のエンパワー層がやや増えており、高位層についても3年前から少しずつ少なくなっている。
- ・算数のエンパワー層は数年で少なくなっていることから、低位層の児童も学習に取り組めるような個に応じた手立てが有効に働いていると考える。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

- ・引き続き、「思考ツール」(思考を順序だてて組み立てる力、文章を書く力)、「つまずきから考える授業づくり」(主体的に学ぼうとする力)、「既習学習の活用」(学んだことの定着)に取り組んでいく。

「思考ツール」思考を順序だてて組み立てる力、文章を書く力)

…比較する、分類する、など、思考を整理するためのツールを活用する。3年前より、学校全体で取り組んでいる。ツールを使って整理したあと、自分の考えを文章にしている。全学年系統立てられたテーマで毎月取り組んでいる。

(例：PMI ツール「運動会での、自分のことを評価しよう」)

(例：ベン図「わにときゅうりを比較しよう」)

「つまずきから考える授業づくり」(主体的に学ぼうとする力)

…どのようなつまずきが予測されるかを考え、学年で交流し、手立てを考えている。また、学びプランを活用して単元を通した見通しをもてるようにしている。

「既習学習の活用」(学んだことの定着)

…「今学習している単元」ではなく、「今までに学習した単元や教科の復習」として問題を作る。複数の教科等を関連させ、重点目標の達成に向けて教科等横断的な学習の指導を行っている。

(例：国語科「さまざまな資料を活用しよう」を活用して、総合「持続可能な町のためにできることを考えよう」など)

- ・日直のスピーチなどを取り入れる、話し合い活動、話し方のモデルを示すなどして、文章の組み立て方を身に着ける。
- ・校内ハンドブックを確認しながら授業をすすめる。
- ・学習指導要領を参考にし、教材研究を行う。授業内容を学年で共有する。授業規律、授業展開の統一、共有を行う。
- ・授業の中で、自分の考えを持ち伝える場面を増やす。
- ・表、図、資料を活用し、自分の言葉で伝える言語活動を活かし、「わかったことを明確に伝える」、「わからないことを具体的に伝える」ことができる場面を増やしていく。
- ・自分の考えを持ちにくい児童への対応→自分の考えがもてるように、ペアで考える時間をとるなどして、思考を整理する。